



「子どもたちに
元気をもらって
います」と荒木
さん。

ここまでできたのは みんなのおかげ

あら き ち え
荒木 千恵さん

乳幼児学級ピッコロハウス代表

かがや 輝く女性

高山で活躍する
みなさんの今

ピッコロハウスは市内在住の親子(0~3歳)が対象。毎週木曜日の午前10時から11時30分、福祉センターや国府児童館などで人形劇や音楽、誕生会などを開催します。入会の申込みは荒木さんまで。☎72-5003

県は県内で活躍する女性や子育てを応援する企業を平成26年から認定。うち、市内には21人の女性と3つの企業があります。高山で活躍する“みなさんの今”を連載で紹介します。

イベント情報

ピッコロハウス「クリスマス会」
サンタさんがお菓子をプレゼント！ケーキもあるほか、親子で簡単な工作にチャレンジ、ピンクスの演奏会などがあります。
日時 12月21日(木) 午前10時~正午
場所 国府児童館(国府町三日町・こくふ保育園内)
参加料 200円(会員は無料)
申込方法 12月14日(木)までにTEL
問合先 国府児童館 ☎72-5261

33年間の保育士経験を生かし、0~3歳の乳幼児と保護者を対象とした「乳幼児学級ピッコロハウス」を運営する荒木さん。
障がい児保育に関心を持ったのが保育士の道を目指すきっかけだった荒木さんは、短大卒業後、地元国府町の保育園に入職。園では障がい児のクラスを受け持ちながら、更なる障がい児保育の理解を深めるために岐阜大学へ半年間通い、大学生とともに学びました。
保育園に勤める間、自身の育児を振り返ると失敗ばかり。仕事に没頭するあまり、長男の家庭訪問日を忘れたことも。そんな自分を支えてくれたのは、両親をはじめ家族と園児たちだと振り返ります。
「みんなに支えられ、元気を分けてもらえたからこそ、ここまでやれた。みんなのおかげ」
ピッコロハウスでは、乳幼児の遊びの場の提供だけではなく、保護者とともに学び合う場にしたいと、ピッコロハウスのお母さん方と四季折々の体験や食育、講師を招いた子育て相談会など、積極的に企画しています。
「水や土、草、木にふれることが人間性を育む」
これは、自然の中で五感を養いながら、たくましく生きる力を身につけてほしいと願う荒木さんのポリシーです。
今後はピッコロハウスに団塊の世代の参加も促したいと話します。孫の有無に関わらず、みんなが子育てに関わってほしいからです。
現在は、こくふ保育園に併設されている児童発達支援事業所「すくすく教室」の療育スタッフとしても活躍。いつまでも最初の思いを忘れず、子育て支援に携わる荒木さんです。

市長室へようこそ

●市民と市長の面談日

12月14日(木)

午前9時~11時45分

※事前にご予約ください



また、始業前の時間も市役所の市長室を「市民と市長の対話の場」として開放しています。お気軽にお越しください。

●開放時間

午前7時~8時30分まで

※出張や特別な行事がある場合は除きます。
※市ホームページで市長の週間スケジュールを公開しています。

市長室直通FAXもご利用ください
FAX☎32-7000

問合先 秘書課 ☎35-3130



この産地を支えるのも収穫機のおかげ。「以前は手で刈り取っていたので腰が痛くて」と平野さんは懐かしみます。
栄養豊富なハウレンソウ。市民の皆さんも今季最後の地元産を存分に味わっていただき、元気を体で新年を迎えませんか。

市内では、ハウレンソウの収穫作業が終盤を迎えています。
「気温が下がるこの時季が一番おいしい」と話すのは、生産農家で市地産地消推進会議の会長、平野善之さん。ご子息と収穫機を使って手際よく収穫される姿です。
スーパーでは一年中あるハウレンソウですが、雪が多い高山では4月から12月上旬までが出荷期間。地元市場のほか、名古屋や岐阜、関西、北陸方面に出荷されます。
なお、全国の市町村でハウレンソウの販売額1位はどこか分かりますか?それは高山市です。昨年は約47億4千万円でした。まさに市を代表する特産の一つです。

広報
市長だより

71

ハウレンソウに思うこと
高山市長 國島芳明

ケーブルテレビの番組「ハイ、市役所です」はインターネットでもご覧いただけます。
市ホームページ「行政情報」の動画コーナー

高山市公式YouTubeチャンネル

検索